院内報「みらい」（ 臓器移植のはなし ）

日本でも生体移植が行なわれ、早いもので４年経ちました。
整形外科では、骨折で折れた骨の形が骨につきにくそうな場合や、折れた骨に傷口から細菌がついてしまったりしたために何日たっても骨ができてこない場合などに、自分の体の中の別な骨を移植することはよく行なわれてきました。さらに、骨の必要な場合は心臓や肝臓などの様に血液が流れなくってからすぐに摘出、移植しなければいけないわけではなく死後の体から採取することもできるため、施設によってはほかの人の骨をあらかじめ取っておいて冷凍保存し、必要なときに使うことも以前より行なわれてきました。
骨だけでなく腱や神経、筋肉、血管などの移植を同じ人ですることがありますが、筋肉や血管は血流を保ったままで移植をしないといけないために前もってとっておくことはできません。これは心臓や、肝臓などでも同じことです。

市内の北里病院には、移植コーディネーターという移植を担当する職員がいて、臓器提供者の相談をしています。当院でもドナーカードを窓口においてありますが、いざ署名となるといろいろ考えます。臓器の提供でも血液が流れているうちに提供しなければだめな心臓、肺、肝臓や、心臓が止まってからでも良い腎臓、角膜など様々な提供の方法があります。わが国でもアメリカやカナダのように自動車の免許証に臓器提供の欄がつくようになるかもしれません。

院長　　木内 哲也